News Release

池田晃将の螺鈿

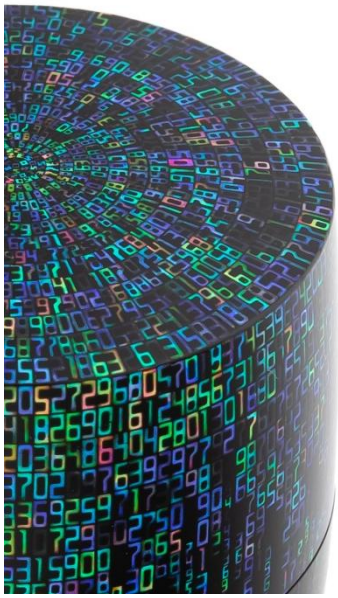
銀座一穂堂

2025.9/5(金)～9/22(日) 11:00-18:00　月曜休廊　※事前予約制

池田晃将の螺鈿の作品は、日本の伝統工芸の技から始まり　現代の科学技術を駆使し、用の美を超えてコンセプトの世界へと進化している。
彼は、高校時代に世界遺産保存修復活動に参加してネパールに行った。その時見た緻密な建造物の表面装飾に惹かれ　その後もアンコールワットやバクタルの寺院群やケルン大聖堂などの宗教建築を訪れるようになった。
デコラテイブと言えるほどの細密な彫刻の集積が　圧倒的な力を持ち　人間に迫ってくる。遠い遠い昔の人間が造った建造物や彫刻に池田は心奪われてしまった。
デジタル世代に生まれ　現代に生きる池田にとって　何をどうした良いか？表現の道を模索し続け　情報時代の象徴である数字に辿り着いた。螺鈿の数字である。
螺鈿の材料となるアワビの殻の真珠層にレーダー光線で焼き入れ、その貝辺を水槽の中で　超音波によって揺らし　極小の数字を浮かび上がらせるような技術を 7 年かけて開発し　見えないほどのミクロの貝をカットする事に成功した。
香合や茶器や小箱を掌にのせると軽く　木曽檜の素地、漆、貝殻などの有機的な材料に　数字やデジタル信号や半導体のような無機質なデザインが**池田晃将の螺鈿**となった。
今回一穂堂では、情報とインターネットの渦に飲み込まれそうな現代人にとって　最も近い意匠のデジタルを　日本の伝統工芸の技である螺鈿に組み入れた池田晃将の新作を紹介します。

[池田晃将　いけだ　てるまさ]
1987 年　千葉県出身
2014 年　金沢美術工芸大学　工芸科　漆・木工コース卒業
2016 年　金沢美術工芸大学大学院　修士課程　修了
2019 年　金沢卯辰山工芸工房　修了
現在　金沢市内にて独立
2022 年 「ジャンルレス工芸展」(国立工芸館、石川)
2023 年　個展「虚影蜃光　－　Shell of Phantom Light　」(金沢 21 世紀美術館　デザインギャラリー、石川)
「超絶技巧、未来へ！　明治工芸とその DNA」(三井記念美術館、東京)
個展「Terumasa Ikeda: Iridescent Lacquer」(Ippodo Gallery New York)
「ポケモン X 工芸展　美とわざの大発見」(国立工芸館、石川)

池田晃将「青貝八千文長棗」H8 x W5.3 x D5.3 cm



一部拡大

◆お問い合わせ先：銀座一穂堂　渡部、松田、山口
(tel. 03-5159-0599　fax.03-5159-0699　e-mail：tokyo@ippodogallery.com)

銀座一穂堂　〒104-0061 東京都中央区銀座 1-8-17 伊勢伊ビル 3F　https://ginza.ippodogallery.com